

広島・草戸千軒町遺跡（第五・六・八次）

1 所在地

広島県福山市草戸町

2 調査期間

第五次 一九六九年（昭44）七月～九月、第六次
一九七〇年七月～一〇月、第八次 一九七二年七

月～一〇月

3 発掘機関

広島県教育委員会

4 調査担当者

代表 松崎寿和

5 遺跡の種類

集落跡

6 遺跡の年代

平安時代～江戸時代（中心は鎌倉・室町時代）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

第五次調査は、遺跡包蔵中洲の北東にあつた小中洲（現在は消失）で行なわれ、町割の施設である柵・溝や一一基の井戸、土坑などを検出した。木簡は溝状遺構SX一一〇、井戸SE一二八から出土した。

のものである。

S G O 三〇 東西一〇m、南北六m、深さ一・五mほどの隅丸長方形の池で、途中で規模を縮小している。埋立に際しては上部に多量の小礫を投入している。木簡は埋土底部に三点ある。肥前系陶磁器類もあり、江戸時代のものである。

第八次調査は、中洲の北東部で行なわれ、各種の遺構が重複しており、直交する柵列、多数の柱穴、土坑、池、井戸などを検出した。木簡は池SGO三〇から出土した。
SX一一〇 長さ九・五m、幅一m、深さ〇・五mほどで、埋土には土器類、箸状木製品、下駄などをはじめ、木簡が一六点（墨書きのないもの三点を含む）とまとまって出土した。室町時代後半のものである。

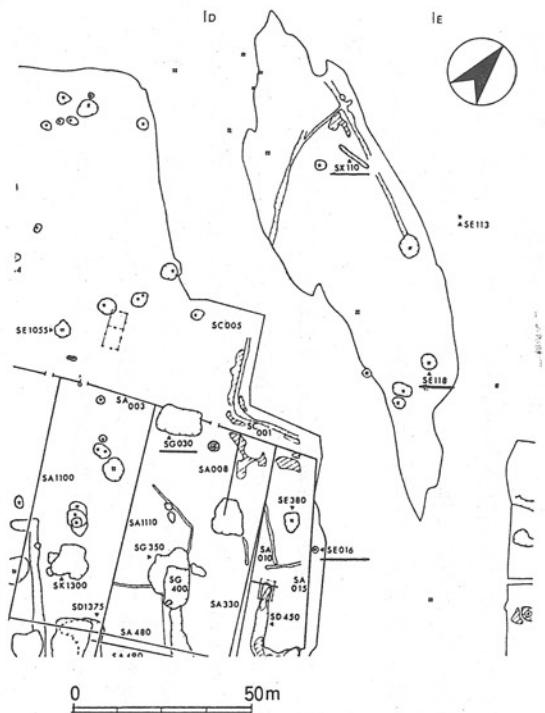
SE一二八 一辺一mほどの木組方形縦板組横棧型井戸である。井戸内の埋土の中に入形、曲物容器、漆塗用具などの各種の木製品が含まれており、木簡が一点、円形板らしきものに文字及び菊花文が記されたものが一点ずつある。室町時代前半のものである。

SEO一六 一辺〇・九mほどの木組方形縦板組横棧型井戸である。井戸内の埋土には土器類や一点の板塔婆がある。室町時代前半のものである。

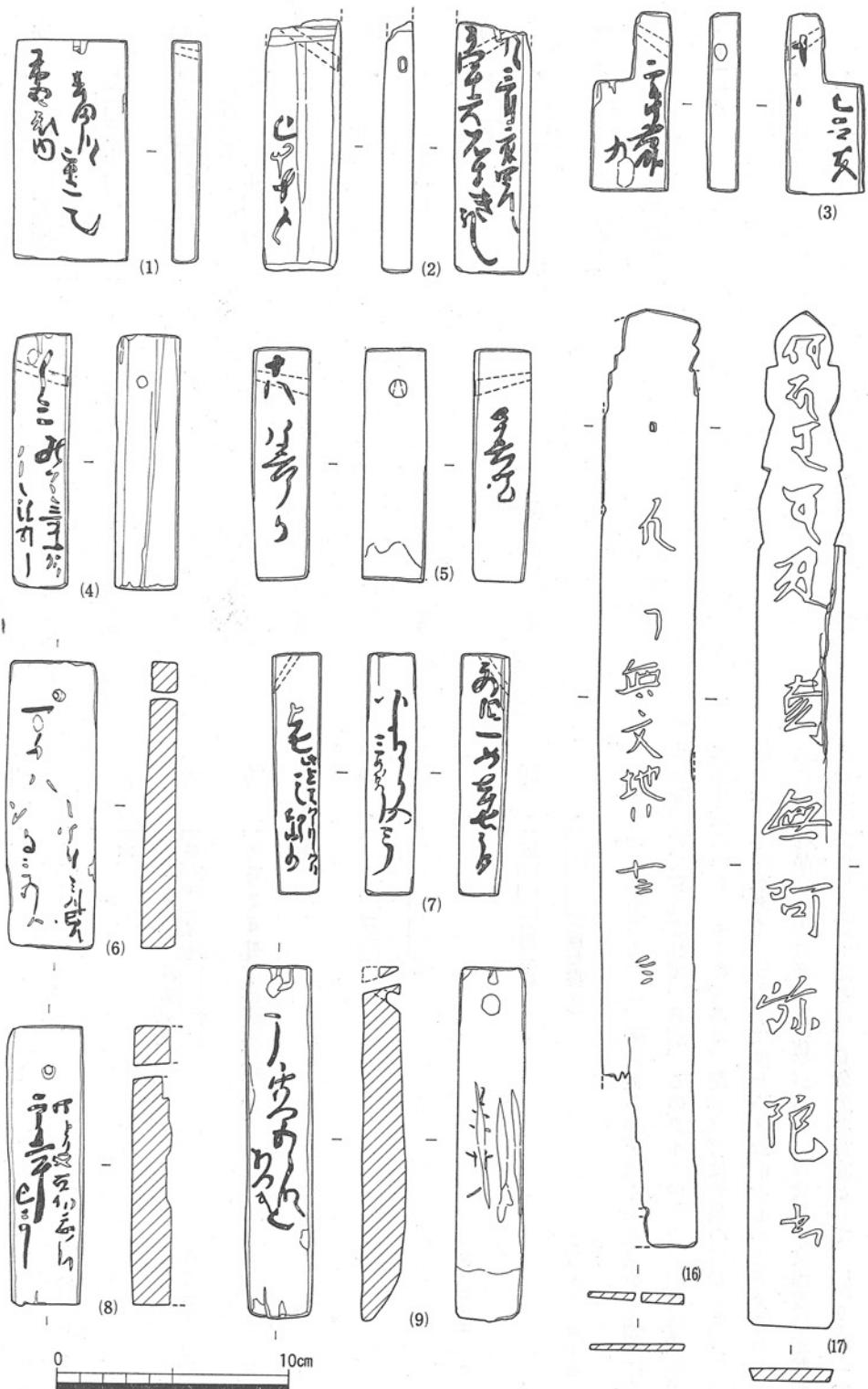
8 木簡の釈文・内容

SX-10

- (1) 「田川
〔芦カ〕
二十一也」
米五表内
96×50×12 102
- (2) 「三斗一升四合
百四十六□□或□○」
巳十五
」
104 (109)×32×13
- (3) 「一升六升
〔九カ〕
□」
104 (109)×32×13
- (4) 「百カ
□三
□□跡五郎」
104 78×34×14
- (5) 「十八跡六郎か
」
142 110×27×24
- (6) 「百六十也
」
142 100×27×15
- (7) 「半分かり入
三貫おろし三郎
」
142 104×21×21
- (8) 「百十八
□□斗三升七合
□□或□□」
142 124×39×15



1977年以前出土の木簡



(9)

〔「貴^カ」〕
・「□□□□五郎殿
あひけ」

・「□11半□」

153×29×19 142

(15)

・□

(145)×(32)×3 181

(10)

・「11□四□□」

〔「南無^カ」〕
「^カ□□文地□□□」

405×41×5 170

・「^ハ□十
11半□□」

〔「^カラマセガ南無阿弥陀仏」〕

441×37×6 170

・「□□」

94×24×25 142

○△○△○

(11)

・「□□」

・「^ハ□□11□

□□□

109×30×25 142

・「□□オ1升」

・「□□」

□□□

127×32×22 142

・「□□」

・「□□」

□□□

127×42×6 100

・「□□□(重ね書き)」

・「□□」

□□□

(175)×53×6 100

SEI-HA

5×110出土のものは、留書風の(3)を除く15点が上端部に焼
火箸を用いて穿孔されているが、このタイプのものは室町時代後半
に集中的にみられるものである。記載内容は物品の容量と錢貨の數
値を示すものが多く、商取引に関わるメモ的なものと考えられる。

具体的な物品名は(1)に米五表(俵)がある。錢貨は百文程度の記載が
多いが、(7)には三貫が記され、具体的な行為として、「かり入」「お
(14) 「^カ□□□」
・「□□□□」
・「□□」
(15) ×(27)×3 120

ろし」「うる」などが記されている。

SE〇一六の板塔婆は、ともに風化して文字が浮き出たもので、(16)には上下両端に釘穴がある。

なお、今回取上げたものは既に『草戸千軒—木簡—』で報告しているが、刊行の際には赤外線テレビカメラによる観察が終了していなかつたこともあって、一部訛文を変更した。

9 関係文献

広島県教育委員会『草戸千軒町遺跡一九六九年度発掘調査概要』(一九七〇年)

同『草戸千軒町遺跡一九七〇年度発掘調査概要』(一九七一年)

同『草戸千軒町遺跡一九七二年度発掘調査概要』(一九七三年)

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒—木簡—』(一九八二年)

同『草戸千軒町遺跡発掘調査報告I—北部地域北半部の調査—I』(一九九三年)

(下津間康夫)

卷頭言	八木充
一九九一年出土の木簡	
概要	平城宮跡 平城京左京二条二坊坊間路西側溝 平城京東市跡
推定地	唐招提寺 藤原京跡 飛鳥池遺跡 四条遺跡 長岡京跡1
長岡京跡2	長岡京跡3 遠所遺跡 木津川河床遺跡 大坂城跡
住友銅吹所跡	桑津遺跡 竜華寺跡 高槻城跡 堺環濠都市遺跡
屏風遺跡	長田神社境内遺跡 宅原遺跡 桂狭遺跡1 桂狭遺跡2
(旧坪井遺跡)	光明寺遺跡 西河原森ノ内遺跡 西河原遺跡 湯ノ
部遺跡	石川条里遺跡 内匠日向周地遺跡 小茶円遺跡 富沢遺跡
多賀城跡	円福寺遺跡 田道町遺跡C地点 上荒屋遺跡 山田郷内
遺跡	稻城遺跡 吉野口(鯉山小)遺跡 三日市遺跡 長登銅山跡
空港跡地遺跡(第3工区)	雀居遺跡 興善町遺跡
一九七七年以前出土の木簡(一四)	
平城宮跡(第五〇・五一・五二・六三次)	上田部遺跡
郡家今城遺跡	郡家川西遺跡 じょうべのま遺跡 高瀬遺跡
考古資料としての古代木簡	山中 章
八幡林遺跡等新潟県出土の木簡	小林 昌二
木上と片岡	岩本 次郎
下級国司の任用と交通—二条大路木簡を手がかりに—	鈴木 景二
「敦煌漢簡」研究の現状と課題	吉村 昌之
彙報	
頒価	四五〇〇円
	十五〇〇円